

中学校のあり方を考える会を3地区で実施

大山町教育審議会から諮問事項「これからの中学校のあり方について」の答申をいただき、これを受けて、5月14日・15日・16日の3日間、3地区で「中学校のあり方を考える会」を開き、中学校の統合についての意見を広く町民の皆さんからいただきました。

【主な意見】

●統合すべき

- ・ 統合に賛成である。校舎の老朽化がひどいところもあり（雨漏りなど）、そんなところに子どもが通うのはかわいそうだ。1校舎に統合し、良い校舎を建てては。
- ・ クラス替えがないのは、人間関係が停滞しやすくなる。
- ・ 現実には子どもは減っている。実態に即して対処して欲しい。有意義に立派に育つように。
- ・ いつまでもセンチメンタルな事は言っていられない。世の中は変わってきている。統合しても大丈夫だと思う。
- ・ 自分はマンモス校で育った。1クラスで中学校までと考えると怖い。

●統合すべきではない

- ・ 最近子どもを狙った犯罪が多く、子どもの体力的な負担も考えると通学距離は短いほうが良いのでは。保護者も帰って来るまで心配だ。
- ・ 統合して、中学校が無くなってしまった地域は子どもがいなくなって廃れていくのではと心配する。
- ・ 学校がなくなると、地域力が落ちる。
- ・ バスで数十分が、生徒に対して負担になる。
- ・ 今後の子どもの数で3校のままで不都合が起こればと思えない。創意工夫をして、大山町の特色ある教育を作っていくことができるはずだ。

●その他

- ・ 少子高齢化は大山町だけで考えることか。学校は地域に必要なと思うが、周囲の状況も考えて検討したほうが良いのではないか。町内の学校に通うことに限定せず、近いところが良いという考えや意見も出てくる。
 - ・ 今後も多くの町民の意見を聞き、十分に討議して欲しい。
- * 当日は、中山地区48人、名和地区28人、大山地区29人の出席で、保護者の立場、住民の立場、教員の立場から意見をいただきました。中には、若いお母さんから子育てしやすいまちづくりのご提言もありました。
- 今後は、この意見を参考にしながら、又、より多くの意見を聞き教育委員会として、今後の中学校のあり方について方向性を出していきます。



目録を受け取る杉原陽南さん(名和小)

高田工業団地に進出している「ニッパ株式会社」が、創業60周年及び同町への進出10周年を記念して町内の小学校へ総額200万円分の図書を寄贈し、5月20日名和小で贈呈式が行われました。

ニッパの林社長から中山小、名和小、大山西小、大山小の代表児童へ目録が贈られ、代表として林原悠さん(名和小)が「たくさんの本をありがたうございます。大切に読みたいと思います」とお礼のあいさつをしました。

林社長は、「いつも元気にあいさつをしてくれる大山町の子どもたちに励まされている。いろいろな本を読んで豊かな心をはぐくんでもらいたい」と話しておられました。

読書で豊かな心を 「ニッパ」が小学校に図書寄贈

青空に向かってたくましく元気よく 小学校運動会

雨で1日順延になった学校もあり、今年は6月1日(日)に町内4つの小学校で運動会が行われました。元気いっぱいグラウンドを駆けまわる子どもたちに、観覧席からは熱い声援が送られていました。



大山小では紅白対抗で競技が行われました。1年生にとって小学校へ入学してはじめての運動会。元気いっぱい取り組みました。玉入れ合戦では、小さな体を一生懸命につかってがんばりました。



「大山賛歌」の曲に合わせての入場行進、そのあと「ラジオ体操」で演技が始まりました。色別対抗リレーでは、上学年、下学年とも各チームから選抜された選手が大声援を受けて接戦を繰り広げました。

行事ごとにとたくましくなる子どもたちです。

●大山小学校

●名和小学校